

令和5年8月26日
岸田総理と沖縄県観光関係者との車座対話について

1. 参加者

- 一般社団法人国頭村観光協会 会長 比嘉 明男
- 知念紅型研究所 社長 知念 冬馬
- かりゆしグループ 会長 平良 朝敬
- 宮古島観光協会 青年部長 大泊 千尋
- 沖縄観光コンベンションビューロー 会長 下地 芳郎
- 株式会社紡 代表取締役社長 玉沖 仁美

2. 車座対話における参加者の主な意見（概要）

- (1) オーバーツーリズムの懸念への対策について、以下の意見があった。
- マナーづくり、持続可能な観光の実現には、地域住民の生活への観光客側の理解と協力、お互いの信頼関係が必要。
 - （世界自然遺産地域等への）観光需要のコントロール・入域規制、観光客の分散も重要。
 - 観光インフラの強化や二次交通の充実が必要。
- (2) このほか、持続可能な観光の推進に向けて、以下の意見があった。
- 観光客が来て島の大切なものが失われている気もする。観光庁事業を活用して、本当の島の豊かさ、未来につないでいくべきものは何か、地域で議論した。来れば来るほど大切なものに繋がる、持続可能な形を考えたい。
 - 地域で稼いだ収益が地域外や海外に漏れ出すことなく、地域における人材育成、設備投資に振り向けられ、好循環することが必要。
 - 地域において文化や自然の保全・活用を図りながら付加価値の高い観光を生み出して行けるよう、質の高い地域人材の育成が必要。

3. 車座対話後の岸田総理ご発言（抜粋）

「観光客が集中することによって生じる混乱ですとか、マナー違反による混乱等、いわゆるオーバーツーリズムへの懸念についても、政府として重要課題だと受け止め、この秋にも、対策をとりまとめていきたい。」